

令和7年度学校評価(重点目標)

松本筑摩高等学校 定時制夜間部

学校教育方針		中・長期目標			
定通の和を尊び、理想の追求を象徴する校章と校歌に示された精神をもとに、 1. 知性の涵養 2. 品性の陶冶 3. 心身の練磨を目的とする。		「心あらたな学び直し学び直し」、「限られた時間を活かした学び」、「働きながらの学び」を願う生徒が、安心して学習できる環境をつくり、社会の一員として生きる力を育成する。			
		今年度の重点目標			
		1 いじめや暴言・暴力を絶対に許さない安心・安全な学校をつくる。 2 社会人としての基礎力としてコミュニケーション力を育てる。 3 生徒の力を引き出す「わかる授業・伸ばす指導」を工夫し、学力を定着・伸長を図る。 4 地域に開かれ、地域とつながる学校をつくる。			
分野	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題	改善策
学習指導	教育課程	1 生徒の実態に即した教育課程、シラバスの具体的な研究を深めるとともに、教育課程における学校設定科目の適正配置を進められたか。	A	生徒の実態に即して多様な学校設定科目があり、生徒のニーズにきめ細かく対応している。少人数での授業展開を基本に、興味・関心はもとより、進路実現をも見据えた学校設定科目の配置に努めた。また、単位制に由来する特殊な履修形態(年次を跨ぐ再履修や一部科目のみ必要な生徒への便宜)にも最大限配慮した。その結果、時間制作成が困難を極めたが、組み合わせの工夫により対応できた。	生徒個々の状況をさらに理解しながら、授業の構築やシラバスの作成を進めたい。教科学習においてある程度目標を達成した生徒が、残り期間をどのような課題に向けて学習を進めるべきかは、さらに研究していきたい。
	授業の充実・改善	2 多様な生徒に対応した授業展開の研究と職員の協力体制の構築を図り、少人数学級・講座の特長をいかすことができたか。	B	一人ひとりの生徒の実態を把握し、その生徒に的確に対応した授業構築を進めることができた。生徒一人一人は、それぞれが感じている困難さを少しずつ克服しているため、各生徒が協力し合ってコミュニケーション能力も高める授業も展開したい。	今後も継続して、生徒一人ひとりに寄り添い、生徒理解に努めて、「わかる」や「できる」を一つひとつ増やせるような確かな支援を進めていく。ただし、個々に応じた学習を集団授業の中でどう実現させるか、研究の余地がある。
生徒指導	安全・安心な学校づくり	3 お互いを尊重し合う心を育てるとともに、生徒の変化を見逃さずトラブルの未然防止に向けた取組を行うことができたか。	A	生徒間での表立っての大きなトラブルはなく、人権講話、全体集会、ホームルーム、授業など学校生活を通して人権感覚を養うことができた。少人数の静かな雰囲気の中で授業を受けたと願う生徒が在籍しているなかで、多くの生徒が、仲間に迷惑をかけないよう思いやる気持ちが育っている。適切な人間関係を形成する能力の育成を人権学習の場を通じてできた。	生徒一人一人の個性を把握し、適切な対応をしてゆくことが必要だと考える。ネットによる人権侵害はないが、引き続き予防に努めたい。生徒会主催の行事など全校参加の行事を通して、仲間づくりを行う中で、いじめのない雰囲気作りに努めたい。また、内向的な生徒や、他者の気持ちを理解することが苦手な生徒への気遣いをさらに高めていく取り組みをしていく。
	生徒理解を深める相談支援	4 生徒相談・カウンセリング体制の充実を図りながら、個々の生徒が抱えている課題を共有し、生活の安定や学習活動の充実につながる支援を行うことができたか。	B	教室・保健室・家庭等様々な場面で得られた生徒の情報や課題を職員全体で共有し、外部機関とも積極的に連携を取り合っ解決を図ることができた。日常生活の中で、生徒の変化に気づいた教員が、生徒にカウンセリングの必要性を問いかけ、カウンセリングにつなげようとした事例があったが、すべての職員が十分なカウンセリングマインドを持って生徒と接するようにしたい。	生徒の心の深いところまで入り込むことはできなくても、積極的にコミュニケーションをとるよう心がけることが大切だと考える。引き続き、生徒を支え切れない家庭への支援をお願いできる外部機関との連携をしっかりと取っていきたい。また、今後は日本語を母国語としない生徒の受け入れも想定しながら、生活の安定や学習活動の充実につながる支援も考えていかなければならない。
進路指導	進学、就職指導の充実	5 一般常識・課題に対応できる力をつけ、進学・就職における面接・学科試験などの個別指導に応じることができたか。	B	学校設定科目(ベーシック国語、数学、英語、社会)を実施することで、教科の基礎力アップを図った。また、「就職チャート」では、就職試験向けに教養的な内容を含む高校での学習内容の理解度の向上と定着に努めた。卒業年次生には、進学・就職試験に備えて、担任・進路担当を中心に、個人面談や個別指導も行い、ほぼ計画通りの指導ができた。一方で、三修制で卒業しようとする生徒に対しては、限られた時間のなかで指導していくことの難しさがある。	基本的には進路対策は4年生を中心に行わざるを得ないが、三修を目指す生徒の進路対策をたて、個別指導についてもさらに充実させる態勢を整えていきたい。引き続き、学校設定科目(教養基礎、就職チャート、ベーシック)等による学力の伸長を図る。
	キャリア教育の推進	6 自己肯定感や他者と関わる力を育むため、教科指導や「総合的な探究の時間」等の中で、体験活動を計画し、実行することができたか。	A	「総合的な探究の時間」を中心にハローワークから講師を招へいしたり、進路担当によるガイダンス、就職内定者による体験談等を通じて、進路実現に向けた意思決定ができるようサポートした。生徒の興味にはムラや個人差がみられたが、熱心に探究する場合もあった。	引き続き、全教育活動を通じ自己肯定感の醸成と高揚を目標とし、実体験を伴うキャリア教育を継続していきたい。また、生徒の聞く姿勢や参加する姿勢を向上させていくことで取り組みのムラに改善が見込まれると考えられる。
教育活動	クラス運営	7 通常の連絡・保護者懇談会の活用し、保護者との連携を密にしたクラス運営ができたか。	B	ホームルーム担任を中心として、各家庭との連絡は密にとることができており、保護者・家庭との様々な情報を共有できた。始業時にあるドリル学習及びその後のSHRを通じた担任業務により、生徒の様子を把握し、一日の教育活動を進めることにつながった。欠席や遅刻の連絡をできるようになった傾向もみられたが、徹底するように支援していきたい。	連絡のない遅刻や欠席もあり今後も生徒への啓発を継続しながら基本となる生活習慣の確立を目指していく。懇談会に限らず、機会を捕まえて保護者とも連携を図る。保護者が担任や学校関係者に気軽に相談できる環境をつくるために保護者と日頃からコミュニケーションをとる機会を持つ必要がある。
	生徒会活動などの充実	8 生徒が主体的に生徒会活動に取り組むことができるよう支援ができたか。	B	各行事を計画通り実施することができた。スポーツ大会では開閉会式の実施や記念品の準備など運営面で生徒が主体となり関わることもできた。文化祭では生徒自らが企画運営したゲームが参加者に好評であった。懸命に取り組む生徒がいる一方で、参加意欲が低かったり、活動に参加すること自体が苦手な生徒もいた。	皆で創り上げてゆく、自分の問題である、という意識を日ごろから育てていくことが必要である。従来、生徒会執行部の役員が中心となって年間の行事を企画運営してきたが、他の生徒たちにも責任を分散して実施していくように改善していきたい。
学校運営	円滑な学校運営	9 生徒データの管理と正確な資料づくりにより、校務と各指導を円滑に進めることができたか。	A	一人ひとりの生徒に寄り添うことで、生徒の姿がよりはっきりと見え、職員が様々な情報を共有することができ、正確な資料を基に生徒の成長の支援をすることにつながられた。欠課時数や成績等に関するデータをスムーズに生徒指導に活かすことが出来た。	正確な情報にアクセスできることを目指し、校内における様々な場面での生徒への支援に寄与できる態勢づくりを進めたい。C4thの使い方をしっかりと身に着けるられるように協力体制をつくる。
		10 スクールミッションを職員間で共有し、行事や学校運営全般にわたる適切な見直しや改善を進めることができたか。	B	全ての職員が年間の流れが把握できていたわけではなく、先々を見て、見直しを持った運営ができていたとは言えない。	連絡会などを通じて年間の流れや情報を共有し、先々を見据えた対応をしていく。
	開かれた学校づくり	11 授業公開や体験授業の内容を充実させ、わかりやすい情報を提供できたか。(外部の方々の学校への理解を深める)	B	国語では授業公開でも通常と同じ授業を行っており、授業開始10分程度は漢字練習に充てているため、その時間帯に見学に来てもらっても、あまり面白くないという印象を持たれたかもしれない。	授業開始からある程度時間がたってから見学に来てもらうと、実際の中身のある授業をしている様子を知っていただけるので、見学時間の配分などを工夫していく。
		12 同窓会・教育振興会との連携強化を図る取組を行うことができたか。	B	教育振興会の保護者作業では、学校全体としては充実した取り組みになったが、夜間部の保護者の参加が少なかった。	保護者の数は圧倒的に午前午後部が多いので、企画は午前午後部中心に進めるのが良いと考えられるが、夜間部でも積極的にアナウンスし、参加を促していきたい。